

神秘的なご来光

公式な記録が残る前から、修験者や僧侶、熱心な一般人が日本の高峰に登り、瞑想し、祈りを捧げ、最も高揚感のあるスピリチュアルな光景である、雲の上から黄金色の光を放つ朝日を目にしてきました。

高い山頂から日の出を見ることは、日本の精神的な信仰と国民意識の両方に重要な意味を持っています。神道では、太陽は天界の支配者で、皇室の祖先である天照大神として崇められています。日本の密教では、太陽は宇宙の仏である大日如来と結びつけられ、その名前は「大いなる日輪」を意味します。さらに、日本の有名な言葉「日出づる国」には驚くほど古い歴史があります。607 年、当時の摂政であった聖徳太子（574-622）が中国の朝廷に宛てて「日出づる処の天子より」という挨拶の手紙を出しています。14 世紀が経った今でも、ご来光を崇拝することは、この国の文化的、歴史的、精神的アイデンティティの一部となっています。

今では、初期の登山者が経験したような危険な目に遭うことなく、乗鞍岳の最高地点からのご来光を体験することができます。ご来光シャトルバスは、7 月下旬から 9 月中旬にかけて、長野県と岐阜県の両方のバス停から夜明け前に出発します。山頂近くの畳平バスターミナルまでは、どちらの県からも 50～60 分で到着します。畳平から山頂（剣ヶ峰、3,026m）までは、比較的簡単なハイキングで約 90 分です。バスは日の出に間に合うように運行されています。

バスの中では英語のアナウンスが流れ、山の安全性や持ち物の注意点などが説明されます（畳平バスターミナルのコインロッカーには不要な道具を預けられます）。なお、山頂は真夏でもかなり冷え込むことがありますので、ご注意ください。